|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ４月 | １．読みやすく書くための楷書 | | | |
| [やってみよう]  漢字を分解してみよう  (教科書P38-39)  ◎点画の種類を確かめ，穂先の向きや筆圧などに注意して点画を書くことができる。［知技(3)エ(ア)，(1)イ］ | 毛筆  ３ | １ 教科書の図を見て，漢字は点や画の組み合わせでできていることを確かめる。  ２ 漢字を構成する点画の名称と筆使いのポイントを確かめる。  ３ 穂先の向きと筆圧に気をつけて，小学校で学習した点画を毛筆で書く。 | 【知】点画の種類を確かめ，穂先の向きや筆圧などに注意して点画を書いている。  【思】（点画を書くなかで，穂先の向きや筆圧などを確かめている。）  【態】進んで(①)穂先の向きや筆圧などを確かめ(③)，学習課題に沿って(②)点画を書こうとしている(④)。 |
| ５月 |
| 漢字の筆使い (教科書P40-43)  ◎点画の種類を確かめ，漢字の筆使いに注意して楷書で書くことができる。［知技(3)エ(ア)，(1)イ］ | １ 漢字を構成する点画の名称を教科書に書き込む。  ２ ｢学習の窓」を見て，漢字の筆使いのポイントを確かめる。  ３ 漢字の筆使いに注意して，毛筆で「天地」「春風」を書く。  ４ 毛筆で学習したことを生かして，硬筆で「天地」｢春風」「探究」を書く。 | 【知】点画の種類を確かめ，漢字の筆使いに注意して書いている。  【思】（毛筆で「天地」「春風」を書写するなかで，漢字の筆使いを確かめている。）  【態】進んで(①)漢字の筆使いに注意し(③)，学習課題に沿って(②)「天地」「春風」を書こうとしている(④)。 |
| 楷書に調和する仮名（いろは歌）  (教科書P44-45)  ◎楷書に調和する仮名の筆使いや字形に注意して，整えて書くことができる。［知技(3)ア，エ(ア)］ | 毛筆  ２ | １ ｢いろは歌」の成立や平仮名の字源について理解する。  ２ ｢学習の窓」を見て，楷書に調和する仮名の筆使いと字形のポイントを確かめる。  ３ ｢結び」や「曲がり」「折り返し」の筆使いを確かめる。  ４ 楷書に調和する仮名の筆使いや字形に注意して，小筆で「いろは歌」を書く。 | 【知】楷書に調和する仮名の筆使いや字形に注意して，整えて書いている。  【思】（小筆で「いろは歌」を書くなかで，楷書に調和する仮名の筆使いや字形を確かめている。）  【態】積極的に(①) 楷書に調和する仮名の筆使いや字形に注意して (③)，学習課題に沿って(②)「いろは歌」を書こうとしている(④)。 |
| ６月 |
| 文字の大きさと配列（俳句）  (教科書P46-47)  ◎文字の大きさ，配列などについて理解して，楷書と楷書に調和する仮名で書くことができる。［知技(3)ア，エ(ア)，(1)イ］ | 毛筆  ２ | １ 教科書Ｐ46の｢夏の夜や…」を見て，どこを直すと読みやすくなるかを考える。  ２ ｢学習の窓」を見て，文や文章を読みやすく書くための，文字の大きさや配列のポイントを確かめる。  ３ 必要に応じて，墨のすり方を確かめる。  ４ 文字の大きさと配列を意識して，小筆で「夏の夜や…」を書く。 | 【知】文字の大きさ，配列などについて理解して，楷書と楷書に調和する仮名で書いている。  【思】（決められたサイズの用紙に俳句を書くなかで，文字の大きさ，配列などを確かめている。）  【態】進んで(①)用紙に合った文字の大きさ，配列などについて考え(③)，学習課題に沿って(②)小筆で俳句を書こうとしている(④)。 |
| ７月 | [コラム]文字の歴史を探る  (教科書P48-49)  ◎漢字の書体の変遷や仮名の成立について理解することができる。［知技(3)エ(ア)・(イ)］ | 毛筆  １ | １ 漢字には3000年以上の歴史があり，時代とともにさまざまな書体が誕生したことを知る。  ２ 日本独自の文字である仮名が，漢字を元にして誕生したことを知る。  ３ 篆書・隷書・草書が生活の中で使われていることを知り，身近な使用例を探す。 | 【知】漢字の書体の変遷や仮名の成立について理解している。  【思】（文字の大まかな歴史を確かめている。）  【態】積極的に(①)文字の歴史について知ろうとし(③)，学習課題に沿って(②)身近な使用例を調べようとしている(④)。 |
| [学校生活]目標を書こう  （教科書P50）  ◎今までに学習した知識・技能を生かして書くことができる。［知技(3)エ(ア)，(1)イ］  ○日常生活の中から課題を決め，材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。[B(1)ア] | 適宜 | １ 教科書Ｐ50の例を見て，目標の書き方を理解する。  ２ 目標（個人・グループ・学級）を考え，読みやすさを意識して，用紙・筆記具・文字の大きさや配列を考える。  ３ これまでに学習したこと（漢字の筆使い／楷書に調和する仮名／文字の大きさと配列）を生かして，目標を書く。 | 【知】今までに学習した知識・技能を生かして書いている。  【思】（目標を書く活動のなかで，今までに学習した知識・技能の生かし方を考えている。）  【態】進んで(①)習得した知識・技能を振り返り(③)，今までの学習を生かして(②)目標を書こうとしている(④)。 |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ９月 | ２．読みやすく速く書くための行書 | | | |
| [やってみよう]  速さを比べてみよう  （教科書P52-53）  ◎漢字の行書の基礎的な書き方を学ぶ意義を理解することができる。［知技(3)エ(ア)・(イ)，(1)イ，A(2)イ］ | 毛筆  ２ | １ 書く速さを意識して，一画ずつ丁寧に楷書で｢春・夏・秋・冬」を書く。  ２ できるだけ速く「春・夏・秋・冬」を書く。  ３ １と２で書いた文字を比べて，速く書いたときの文字の特徴を話し合い，速く，読みやすく書くことができる行書を学ぶ意義を理解する。 | 【知】漢字の行書の基礎的な書き方を学ぶ意義を理解している。  【思】（二つの速さで書き比べる活動のなかで，両者の形の違いを確かめている。）  【態】積極的に(①)速く書いたときの文字の特徴を捉え(③)，学習の見通しをもって(②)行書を学ぶ意義について話し合おうとしている(④)。 |
| 行書の特徴 (教科書P54-55)  ◎漢字の行書の特徴を理解することができる。［知技(3)エ(イ)，(1)イ，A(1)オ(2)イ］ | １ 楷書と行書で書かれた「緑」を比較して違いを見つけ，話し合う。  ２ ｢学習の窓」を見て，行書の特徴を理解する。  ３ 行書で書かれた「緑」を指でなぞり，行書の特徴を確かめる。  ４ 教科書Ｐ55下段を見て，今後の学習内容を知る。 | 【知】漢字の行書の特徴を理解している。  【思】（行書で書かれた「緑」をなぞるなかで，行書の特徴を確かめている。）  【態】積極的に(①)楷書と行書の違いを考え(③)，学習課題に沿って(②)行書の特徴を話し合おうとしている(④)。 |
| 10月 | 丸み・点画の連続  (教科書P56-57)  ◎漢字の行書の基礎的な書き方(丸み・点画の連続）を理解して，身近な文字を書くことができる。［知技(3)エ(イ)，(1)イ］ | 毛筆  ２ | １ 行書で書かれた「一」を指でなぞり，楷書との筆使いの違いを理解する。  ２ ｢学習の窓」を見て，点画が丸みを帯びる理由と，行書で書くときの留意点を確かめる。  ３ 丸みを意識して，毛筆で「一」を書く。  ４ 行書で書かれた「二」「口」を指でなぞり，楷書との筆使いの違いを理解する。  ５ ｢学習の窓」を見て，点画が連続する理由と，主な連続の仕方を確かめる。  ６ 点画の連続を意識して，毛筆で「二」「口」を書く。  ７ 毛筆で学習したことを生かして，硬筆で「一」｢三」｢日」「口」を書く。 | 【知】漢字の行書の基礎的な書き方（丸み・点画の連続）を理解して，身近な文字を書いている。  【思】（毛筆で「一」「二」「口」を書くなかで，行書の特徴＜丸み・点画の連続＞を確かめている。）  【態】進んで(①)行書の書き方（丸み・点画の連続）を理解し(③)，学習課題に沿って(②) 「一」「二」「口」を書こうとしている(④)。 |
| 11月  12月 | 点画の変化  (教科書P58-63)  ◎漢字の行書の基礎的な書き方(点画の変化）を理解して，身近な文字を書くことができる。［知技(3)エ(イ)，(1)イ］ | 毛筆  ３ | １ 楷書と行書で書かれた「大木」を比較して，点画（終筆の形）が変化している部分を鉛筆で囲み，形が変化する理由を話し合う。  ２ ｢学習の窓」を見て，点画の終筆の形が変化する理由と，主な変化の仕方を確かめる。  ３ 行書には多様な書き方があることを理解する。  ４ 点画の終筆の形の変化を意識して，毛筆で「大木」や「北西」「月光」を書く。  ５ 毛筆で学習したことを生かして，硬筆で「大木」｢北西」「月光」を書く。 | 【知】漢字の行書の基礎的な書き方（点画の変化）を理解して，身近な文字を書いている。  【思】（毛筆で「大木」「北西」「月光」を書くなかで，行書の特徴＜点画の変化＞を確かめている。）  【態】進んで(①)行書の書き方（点画の変化）を理解し(③)，学習課題に沿って(②) 「大木」「北西」「月光」を書こうとしている(④)。 |
| １月  ２月  ３月 | [国語]季節のしおり１  (教科書P64-65)  ◎今までに学習した知識・技能を生かして書くことができる。［知技(3)ア，エ(ア)・(イ)，(1)イ］ | 硬筆  １ | １ 季節にまつわる詩歌や言葉を音読して味わう。  ２ これまでに学習したこと（楷書の筆使い／楷書に調和する仮名／文字の大きさと配列／行書の特徴）に注意して，楷書・楷書に調和する仮名，行書で季節の言葉を硬筆でなぞる。 | 【知】今までに学習した知識・技能を生かして書いている。  【思】（季節の言葉をなぞる活動のなかで，今までに学習した知識・技能の生かし方を考えている。）  【態】積極的に(①)習得した知識・技能を振り返り(③)，今までの学習を生かして(②)季節の言葉をなぞろうとしている(④)。 |